

「本堂障壁画八面」 修理事業はじまる

本願寺西山別院では、五ヶ年にわたる「本堂障壁画八面」修理事業を計画しております。「本堂障壁画八面」は、昭和五十六年に国の重要文化財に指定された宗門の貴重な財産であるとともに、本願寺西山別院が永世に護持伝承する襖絵です。

◆一六一八(元和四)年頃
徳力善宗作
江戸初期の本願寺お抱え絵師、徳力善宗の現存する唯一の作品。画面いっぱい描かれた巨大な老松に絡みつく藤。咲き乱れる満開の桜に鮮やかな紅が印象的な牡丹。桃山文化の気風を受け継いだ絢爛な金障壁画。(非公開)



松に藤図

桜に牡丹図

重要文化財指定【絵第1823号】昭和56年6月9日指定
本堂障壁画 八面
紙本金地著色松に藤図 襖貼付四
紙本金地著色桜に牡丹図 襖貼付四
寸法：各縦210.8センチメートル 横101.3センチメートル
修理予定期間 約5ヶ年



文化財保護課による現状調査【2019年(令和元)年6月】

親鸞聖人御誕生850年 慶讃法要 立教開宗800年

法要期日

2023(令和5)年に5期30日間

【第1期】3月29日(水)～4月3日(月)6日間

【第2期】4月10日(月)～4月15日(土)6日間

【第3期】4月24日(月)～4月29日(土)6日間

【第4期】5月6日(土)～5月11日(木)6日間

【第5期】5月16日(火)～5月21日(日)6日間

久遠

本願寺西山別院報

第37号

〒615-8107
京都市西京区川島北裏町29番地
Tel:075-392-7939
Fax:075-394-4416
e-mail: nishiyamabetsuin@msa.biglobe.ne.jp

いま私にできること

本願寺西山別院輪番
学校法人本願寺学園理事長
西山幼稚園園長

長屋 善洋



新型コロナウイルス感染症によって、お亡くなりになった方々に衷心より哀悼の意を表しますと共に、現在罹患されておられる皆さまに心からお見舞い申しあげます。

昨年末からの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が全世界へと広がり、国内においてもかつて経験したことがない影響を及ぼしていることは申すまでもありません。西山別院も本年三月からは、その影響を受けています。

別院職員は「マスクを着用」し飛沫感染を

本願寺西山別院 ホームページ

<http://nisiyama-betsuin.jp/>

ブログも
随時更新中!

西山別院

検索

避けて、本堂においては、飛沫対策のための透明パネルやアルコール消毒液を設置し、所謂「三密(密閉、密集、密接)」を避けて、参拝席については一定の距離(ソーシャル・ディスタンス)を保ち、本堂の障子を開けて換気を行うなど、感染防止の取り組みを行っています。

六月からは、「ステイホーム(外出自粛)」や他県への移動制限なども変更されたことから、ご門徒宅へのお参り(参勤)することも可能と判断し、改めて、日程変更をお願いしたご門徒宅へ、さっそくお電話をさせていただきます。お参りの日程調整を行っております。ご法事についても、別院本堂で勤める等の方法をご案内して対応させていただきます。

また、彼岸会や覚祖会などの別院恒例法要や日次勤行(お朝事等)も新型コロナウイルス

又感染症の感染予防を第一に短時間で参拝いただける内容へ変更し、お朝事では「新たな参拝方法」として、対面で話をする「法話」を「三分から五分程度の感話」に時間短縮し、演台にも透明の亚克力板を設置して飛沫感染にならないように対応しております。

ご門徒の皆さまへは、法務の日程変更などご理解とご協力いただきましたことについて心より御礼申し上げます。

お盆の期間中の各自宅への参勤についても、例年通り参勤させていただくように準備を致しておりますが、参勤する別院職員も、入室する前に、持参しているアルコール消毒液を使用して、手指消毒を必ず行い、「マスクを着用」し、マスクの予備も持参してお参りさせていただきます。

現在の社会状況の中で、ご参拝の皆さまが心から安心して参りできる「新たな参拝方法」を模索し、多様な取り組みを進めてまいります。



久遠 - QUON - 第三十七号 二〇二〇(令和二年)八月一日発行

編集発行 本願寺西山別院 〒615-8107 京都市西京区川島北裏町二九番地 電話 〇七五 三九二 七九三九 FAX 〇七五 三九四 四四一六
発行者 長屋善洋 印刷 株式会社アースワーク

盂蘭盆会

「亡くなられた方は、
今は阿弥陀如来さまの
おはたらきの中に
あります」



お盆は、日本の各地で伝統的行事として行われ、『仏説盂蘭盆経』に由来します。お釈迦様の十大弟子の一人で「神通第一」といわれた目連尊者は、亡き母が次にどの世界に生まれただかを神通力によって捜されました。すると、餓鬼道に堕ち、瘦せ衰え骨と皮になった母親の痛ましい姿をご覧になったのです。目連尊者は、お釈迦さまにどうすれば母親を救うことができるかを尋ねました。お釈迦さまは、「そなた一人の力では、母を救うことはできません。雨季に沢山の僧侶らが一ヶ所

に集まり、集団生活をしながら仏道修行する安居があり、その最終日に僧侶らに供物を施すならば、仏法僧の三宝の功德により、そなたの母は救われるであろう」と答えられました。目連尊者は、その通りに僧侶らに布施を行い、その功德により餓鬼道に堕ちていた母親は救われたのです。



お盆の行事や風習は、地域によってさまざまですが、浄土真宗では仏・菩薩が歡喜された日ということもあって「盂蘭盆会」を「歡喜会」などとも言います。父母や祖先を偲ぶことをご縁に、この私だけではなく、わが父母・祖先、ひいてはあらゆる念仏の人々を救いとして捨てないと、南無阿弥陀仏の六字の如来さまが届いてくださっていることを喜び、この私の口からお念仏が出るようにしてください。あの方のご恩を想うお盆であります。

新型コロナウイルス感染症対策

ご参拝された皆さま方に、安心してご参りいただけるように、十分な感染予防を行って、法事・法要をおつとめします。「3つの密」(密閉・密集・密接)を避けながら、ともに仏さまのお話を聞かせていただきましょう。



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の予防対策のため、以下のように取り組んでおります。

● 境内では

- ・別院職員は、手洗い、消毒に努め、マスクを着用しています。
- ・アルコール消毒液を完備して消毒の実施(手すり・椅子・ドア・テーブル等)を徹底しています。
- ・本堂では、1〜2m間隔を空けて席を配置するとともに、十分換気します。

● 読経中は

- ・できるだけマスクを着用し、マスクをはずす場合は、十分な距離を確保します。

● 法話のときは

- ・ご参拝された皆さまと対面することがありますので、飛沫を防ぐ工夫をします。(例)距離の確保、マスクの着用、飛沫防止板の設置など

いま 私にできること

私のいのちを 大切にすること
他の人のいのちを 大切にすること

浄土真宗本願寺派(西本願寺)

西山別院では、八月十四日(金)に本堂にて、盂蘭盆会を厳修いたします。

この度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染防止対策として、参拝者の皆さまの健康を第一に、分散型でご参拝いただくようにご案内させていただきます。

まず、九時半から初盆をお迎えされるご家庭に初盆会をご案内いたします。その後、十時半と十一時半に、盂蘭盆会をお勤めいたします。

できる限り密集を避けるために分散型のご参拝にご協力くださいますようお願い申し上げます。

西山別院の盂蘭盆会について

日時:2020(令和2)年8月14日(金)
 一部:9時30分~10時 初盆の方
 二部:10時30分~11時 一般参拝の方
 三部:11時30分~12時 一般参拝の方
 場所:本願寺西山別院 本堂
 お盆の法要です、どうぞご参りください。



飛沫防止板の設置



手指消毒液の設置



室内の消毒

いま私にできること

What can I do now?

私のいのちを大切にすること

To cherish my life

他の人のいのちを大切にすること

Respecting the life of all people on earth

いま私たちは 大きな不安の中で 生活しています。
目に見えない ウイルスに対する不安。
いつまで続くかわからない不安。
大切な「つながり」が そこなわれてしまいそうな不安。
そんなときは 少し立ち止まって周りを見てみましょう。

「つながり」の中で 生かされている私。
だからこそ いま 私のいのちを大切にしたい。
私とつながる他の人の いのちを大切にしたい。
そのために いま 私にできることを考えましょう。

自分は大丈夫と 過信しない。
必要なものは 人と分かちあう。
根拠のない情報に 振り回されない。
不安が生み出す偏見や差別の心を 持たない。
厳しい状況の中 力を尽くしている方々に 感謝する。

「つながり」の中で 生かされている私たちは
共にささえあい 力をあわせ
誰もが安心して生活できる社会を 取りもどしてまいりましょう。



こちらのQRコードから
ポスターデータを
ダウンロードできます。



浄土真宗本願寺派(西本願寺)

新型コロナウイルス感染症に関する「念仏者」としての声明について

浄土真宗本願寺派より、新型コロナウイルス感染症に関する

「念仏者」としての声明が発表されましたので、お知らせいたします。

声明につきましては、下記の浄土真宗本願寺派ホームページからもご覧いただけます。

<https://www.hongwanji.or.jp/news/cats/000509.html>



新型コロナウイルス感染症に関する念仏者としての声明

現在、新型コロナウイルス感染症は世界中に拡がり、収束する気配を見せていません。日本でも緊急事態宣言が発令されるなど、状況は新たな段階に入っています。

まず、このたびの新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた国内外の多くの方々にご哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆さまに心よりお見舞い申しあげます。さらに、特に高い感染リスクにさらされながらも、懸命に治療・対策にあたられている医師、看護師をはじめとする医療従事者の方々に深く敬意と感謝を表します。

こうした危機的な状況において、世界中のひととが共に力を合わせ、励まし合って対応していま

す。しかし、症状が出ないために感染に気づいていない人の行動が、感染拡大の一因となっている場合もあるのではないかと指摘されています。感染症の危険性や対処法を正しく理解し、実行するとともに、差別や偏見が広がらないよう、一人ひとりがお互いを思いやり、注意深く行動していきたいと願っております。

釈尊が明らかにされた苦しみの根源である無明、煩惱、また親鸞聖人が「煩惱具足の凡夫」という言葉でお示しになった私たち人間の根本に潜む自己中心性に思いをいたし、このような時にこそ、人と喜びや悲しみを分かち合う生き方が大切ではないでしょうか。仏教には、「あらゆるものは因縁によりつながり合って存在しており、固定した実体はない」という「縁起」の思想があります。新型コロナウイルスの感染拡大の原因は人との接触であるとされ、本来大切な人との「つながり」が、

覚祖会

覚如上人御命日法要

令和二年四月二十三日(木) 十時より修行了いたしました。

この度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)を予防し、皆さまの健康を守ることを第一に考え、当院の僧侶が、大切にお勤め(内勤め)をさせていただきますました。



法要をお迎える前の仏具のお磨き



うちづと内勤め



かくそびょうさんばい覚祖廟参拝



ごぶんしょうはいどく御文章拝読



覚如上人(向かって右余間)

今は安心感ではなく、不安をもたらすものとなってしまっています。しかし、「つながり」を表面的に捉え、危険なものと否定的に考えてはなりません。世界的な感染大流行という危機に直面する今だからこそ、私たちは仏教が説く「つながり」の本来的な意味とその大切さに気づいていく必要があります。

今重要なことは、仏智に教え導かれ、仏さまの大きな慈悲のはたらきの中、共に協力し合って生きる大切さをあらためて認識し、感染拡大をくい止めることです。緊急事態宣言がコロナ危機を克服してくれるものではありません。この困難を打開できるか否かは、多くの関係者のご尽力とともに、私たち一人ひとりの徹底した適切な行動にかかっています。

私という存在は、世界の人びととの「つながり」の中で生きていくからこそ、やがて、共にこの苦難を乗り越えた時、世界中の人びとと喜びを分かち合えることでしょう。それぞれの立場において、この難局で法灯や伝統を絶やさないために何ができるかを考え、「そのまま救いとる」とはたらいにくださるお念仏の心をいよいよいただき、共に支え合い、力を合わせるのです。誰もが安心して生活できる社会を取りもどすことができるよう、精いっぱいこのつとめを果たしてまいりましょう。

二〇二〇(令和二年)四月十四日

浄土真宗本願寺派総長 石上智康

【覚如上人】(一一七〇～一一五二)

本願寺第三代宗主。西山別院開基。親鸞聖人の曾孫に当られ、「報恩講式」や「御伝鈔」など多くのご著作を遺されました。覚如上人は、親鸞聖人のみ教えを伝承、教義の面から明らかにされ、本願寺教団の礎を築かれました。別院境内地の北西には御廟所があります。